

やまがた創生便り

第 9 号
2018.3.19

“地域創生マインド”を醸成する地域志向教育の展開

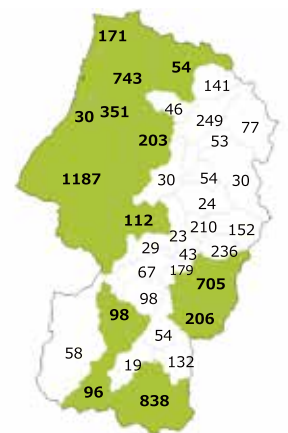
COC+事業では、県内就職率の向上を目的に、学生の“地域創生マインド”*を醸成する地域志向教育を実施しています。そこでは自治体や産業経済団体等に幅広くご協力いただきながら、地域社会や県内企業の魅力にふれる様々な学習を展開しています。

平成29年度は県内全域で200以上の科目・活動が実施され、参加学生数はのべ6798名にのぼっています。事業を開始した昨年度に比べて3割近い約1500名増加しています。

具体的な教育活動については、今号の米沢栄養大学および東北文教大学短期大学部による報告のほか、やまがた創生便りを通じて今後もお伝えしていきます。

*地域創生マインド：地域の現状と課題を理解し、地域の将来を担う存在となる志

のべ参加学生数：6,798名



緑色はCOC+連携市町村

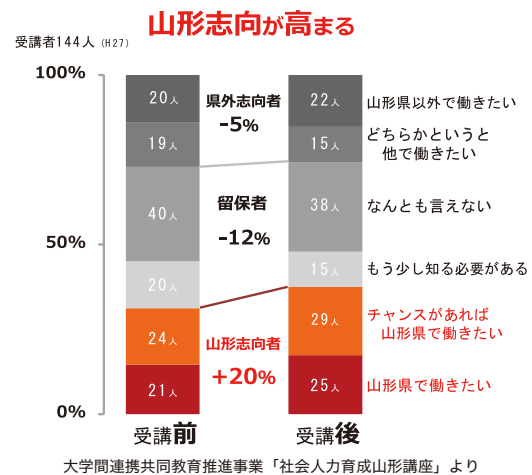
地域志向教育は県内就職へつながるのか？

このような教育の成果について多くの方が関心を持たれることと思われまます。しかしながら、スタートから2年目の本事業で就職への成果を問うのは尚早ですので、本事業と同様に地域志向性の向上を目的とした過去のプロジェクト「社会人力育成山形講座」の成果を例としてご紹介します。

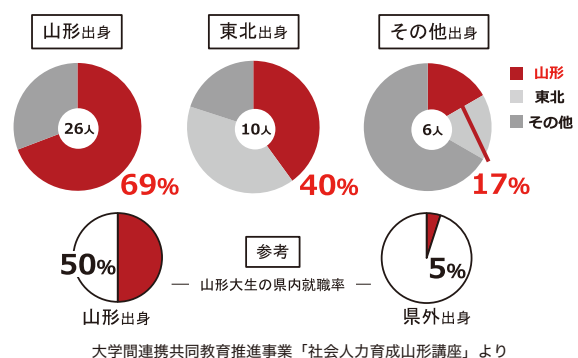
このプロジェクトは平成25～28年にかけて山形県内の高等教育機関が連携し、毎年約30の地域体験型科目を実施しました。そのなかで、学生の山形への就労意向を調査した結果、受講により山形を希望する学生の割合が増加しました（棒グラフ）。さらに最終年度の卒業生を対象に行なった就業地調査では、比較的高い割合で山形県内へ就職していました（円グラフ）。

地域を活用した教育が学生の地域創生マインドを育み、結果として県内就職へつながることが期待されます。

【就労地志向】



【受講者の就職先】



東北文教大学

「社会コース演習」～フィールドワークを通じた地域の課題発見～

東北文教大学短期大学部 総合文化学科
澤恩嬉、齋藤由美子、サイモン・リーヴス
(執筆者)

「社会コース演習」科目は、東北文教大学短期大学部総合文化学科1年の必修科目の一つで、実践的に学び考え、主体的学習能力の基礎を習得することを目的としています。地域の課題を調査する手法を地域で学ぶことがこの授業の主な内容です。平成29年度は、山形市の中心市街地の課題と現状を調査するために、山形駅前と七日町を中心にフィールドワークを行いました。学生たちは、事前学習を通して山形市の中心市街

地が抱える課題に気づき、フィールドワーク本番では、中心市街地で店などを営む方々へのインタビュー調査、街頭でのアンケート調査、街歩き調査を通じて現状を目的のあたりにしました。フィールドワーク後の授業では、フィールドワークの調査結果をもとに、その解決策についてグループごとに話し合い、現状を踏まえた具体的で実現可能な提案を行いました。



インタビュー調査



街頭アンケート調査



調査結果発表

受講学生の声



総合文化学科1年
佐竹穂乃香

中心市街地でのフィールドワーク調査を通して、街の活性化がどれだけ難しいのかを実感しました。また、まずはその街のことを知らないと街の活性化は不可能だということも学びました。インタビュー調査や街歩き調査を

通して、実際に街の方の声を聞いたり、街を歩いたりしたことで新しい発見や、初めて知る場所がたくさんありました。普段当たり前のように利用している場所でも、自分の視点だけでなく、街を利用する方々の視点で見ることによって中心市街地の課題に気づき、それに対する改善点も多く見えてきました。調査をしたからこそ発見がたくさんあったので、自分の目で見たり聞いたりすることは大切なことだと実感しました。

【事業の連絡先】

山形大学 COC・COC+推進室(発行) TEL: 023-695-6264, 6266
山形県立米沢栄養大学総務企画課 TEL: 0238-22-7330
鶴岡工業高等専門学校総務課 TEL: 0235-25-9453
東北公益文科大学庄内オフィス TEL: 0234-41-1115

E-mail: cocsuin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
E-mail: jimuyone@yone.ac.jp
E-mail: kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp
E-mail: coc-office@koeki-u.ac.jp

山形県立米沢栄養大学

保育園との共同研究 食絵本のメディア論的考察

山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部
安部貴洋

平成29年度から山形市のたんぼ保育園を中心とした数園の保育者、栄養士の方々と食絵本に関する研究を行っています。テーマは、食べもの・食べる場面が出てくる絵本を子どもたちがどのように経験するのか、です。子どもとの対話を生み出す絵本の仕組みを考察するとともに、実際に子どもたちが絵本とどのよう

に関わっているのか、園の先生方にお話をお聞きしています。今年度は2回程、学生とともにたんぼ保育園で話し合いを行わせていただきました。絵本に関してはもちろんですが、子どもとの関わりのなかで食や地域を捉えることの重要性を学ぶいい機会になっているように思います。



受講学生の声

エピソードを通して、保育者と絵本を読むこと

健康栄養学部3年
倉持ゆう子

エリック・カール作の『はらぺこあおむし』について、絵本の勉強会を行いました。そこではエピソードを通して、読み聞かせを行った際の子ども達の様子を詳しくお話いただきました。絵本の穴に手を入れて遊んだり、「あおむし」と同じものを食べ楽しんでいる様子など、実際に子どもと関わる保育士の方々の視点からのお話をお聞きすることで、学生だけでは分からない、絵本が子どもに与える影響や楽しみをより理解できました。

今後も保育士の方々と、絵本と子どもの関わりを学んでいきたいと思っています。

たんぼ保育園の給食と子どもの関わり

健康栄養学部3年
杉村賢太郎

たんぼ保育園ではお腹がすいたら今日のご飯はなんだろう?と子どもたちがすぐに給食室をのぞけるような構造になっていました。保育士だけでなく栄養士が保育者として子どもや親と触れ合える環境にありました。

栄養士と子どもや親との距離が近いことは子どもが持つ食への純粋な好奇心に対して正しい食事の知識を与え、栄養士と親が意見交換を通して家庭でも健康的な食習慣を覚えていくことが出来る工夫なのだと学びました。

東北芸術工科大学法人運営課 TEL: 023-627-2089
東北文教大学運営企画室 TEL: 023-688-2298
米沢市総合政策課 TEL: 0238-22-5111 (内:2810)
鶴岡市政策企画課 TEL: 0235-25-2111 (内:525)

E-mail: c_o_c@aga.tuad.ac.jp
E-mail: soumu@t-bunkyo.ac.jp
E-mail: chiiki-t@city.yonezawa.yamagata.jp

COC+参加大学等の活動



グローバルコミュニケーション塾 in Shonai

庄内工業技術振興会と共催で、庄内地域の企業技術者と本校の学生がお互いを深く知り、

かつ世界で活躍する基礎力を付けることを目的としたワークショップを開催しました。学生達は海外での学会発表や留学経験等について発表し、質疑応答もすべて英語で行いました。今後も積極的に英語を使う機会を設け、人材育成・国際交流に取り組んで参ります。



ヤマガタ蔵プロジェクト

ヤマガタ蔵プロジェクトは、山形市を中心とした地域の文化資源である蔵を、新しい視点で地域活性化に資する施設として再生させること

を目的としています。活動主体は学生であり、解体されようとした多くの蔵がアートギャラリーやカフェなどに生まれ変わり、調査・再生活動を通じて得た人脈や経験を活かし学生の地元定着にもつながっています。

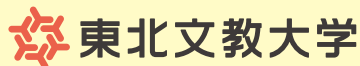


庄内の達人プロジェクト

～聞き書きからみる地域・鶴岡市加茂地区～

クラゲ水族館で有名な鶴岡市加茂地区。平成23年以降、公益大の学生と住民、地元の高校生との

協働まちづくりが続いています。平成29年度は高校生・大学生が加茂在住の「達人」へのインタビューを実施。人を通してのまちの記憶を後世に継承するとともに、世代の異なる年齢層を結びつけることで、多様性を持ったまちづくり活動を推進しています。



学内就職セミナーの実施

進路ガイダンスの一環として、全学科で就職セミナーを毎年開催しています。主に、県内企業の採用担当者、幼稚園・保育園の園長、

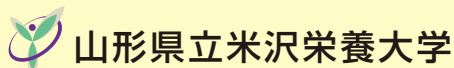
福祉施設の施設長をお招きし、模擬面接と意見交換会を行う内容となっており、参加学生は採用担当者から受けたアドバイスを就職活動に役立て、就職に結びつけています。



庄内町グリーン・ツーリズム推進協議会 と連携した農学部取組

食農環境マネジメント学コースの2年生の演習では、地域フィールドを生かした取組を実施していま

す。今年は庄内町の「道の駅しょうない」や「槇島ほうき手作りの会」を対象に、1年間を通して地域の現状や課題を調べ、今後の展開方向を提案する成果発表会を2月7日に実施しました。郷土料理作り体験も行い、庄内町の方々との交流を深めました。



学外研修

「庄内の食材・食文化・地域文化に触れる」

第4期入学生45名は、山形の食文化・地域文化を学ぶ事を目的に、第1回学外研修を庄内地方に

で行いました。「松ヶ岡開墾場」、水産動物の種苗生産を行う「県栽培漁業センター」そして湯野浜で「庄内の味」を堪能しました。食の専門家を目指す学生にとって、山形の食の源泉を学習できた事は貴重な体験となりました。【写真:県栽培漁業センター】

